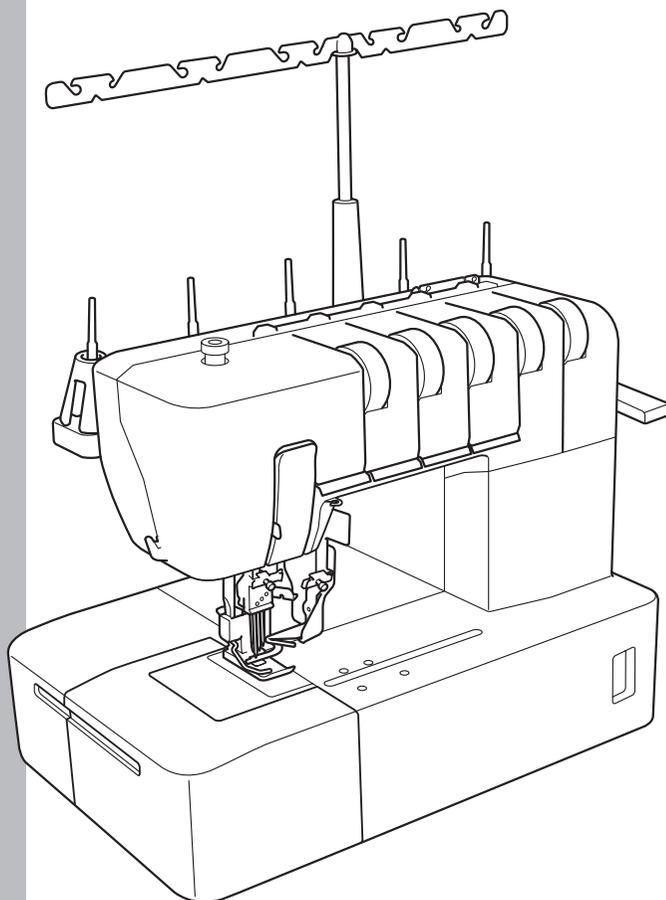


brother

取扱説明書

カバーステッチミシン

LOB31 シリーズ



ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
お使いになる前に以降の「安全にお使いいただくために」をよくお読みのうえ、この取扱説明書をご覧になり、各機能の正しい使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。
また、読み終わった後は保証書とともにお使いになられる方が、いつでも見られるところに必ず保管してください。

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。その表示や意味は次のとおりです。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。

 特定しない禁止事項	 特定しない義務行為	 感電の危険があります
 手を針に近づけてはいけません	 分解してはいけません	 電源プラグを抜いてください
 火災の危険があります	 水に濡らしてはいけません	 特定しない危険通告

本製品を安全にお使いいただくために、以下のことから守ってください。

 警告	
  	必ず一般家庭用電源 AC100V の電源で使用してください。それ以外の電源で使用すると、火災・感電・故障の原因となります。
  	以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。 <ul style="list-style-type: none">・ミシンのそばを離れるとき・ミシンを使用したあと・使用中に停電したとき・接触不良、断線などで正常に動作しないとき・雷が鳴りはじめたとき

⚠ 注意

	
	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
	
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。
	傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
	
	フットコントローラーは付属のものを使用してください。感電や発熱による火災の原因となります。
	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
	
	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご連絡ください。
	
	長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
	
	直射日光の当たるところや、ストーブやアイロンなど、火の気のある物のそばや温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は 0℃～ 40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
	
	野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れた時はお買い上げの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご連絡ください。
	
	温度や湿度の高い所でのご使用や保管はさけてください。
	
	スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。
	
	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。

⚠ 注意

 	<p>ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30 cm 以上離してお使いください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。</p>
   	<p>ミシン本体の上に花瓶や水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買い上げの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
  	<p>ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご連絡ください。</p>
	<p>ミシン本体の重さは約 7.6kg あります。ミシン本体を持ち運びする際は急激、または不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。</p>
	<p>ミシン本体には取扱説明書に記載されている付属品を使用してください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。</p>
  	<p>お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電・けがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お買い上げの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご依頼ください。</p>
 	<p>取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。けが・感電の原因となります。</p>
	<p>ミシン本体は、必ず取っ手を持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべて落としたりして、けがの原因となります。</p>
	<p>ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針・プーリー・上飾り用部品など、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。</p>
	<p>縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押しつけないでください。けが・針折れの原因となります。</p>
	<p>曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。</p>
 	<p>万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>
  	<p>万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。</p>
	<p>ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。</p>

注意

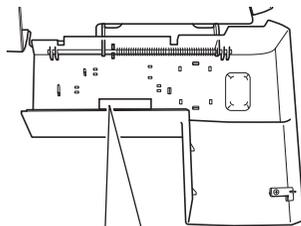
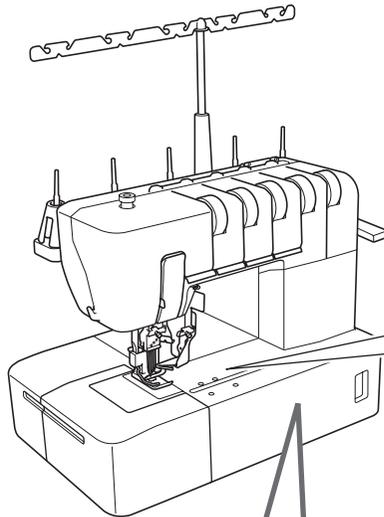
 	お子様の玩具として使用しないでください。お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用になるときは、お子様がけがをしないよう十分注意してください。
	針の下に指などを入れないでください。けがをするおそれがあります。
	糸通しに関する操作については、取扱説明書の通りに正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみなどが発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	フットコントローラーの上に物を置かないでください。けが・故障の原因となります。
	ミシン本体の掃除に、ベンジン、シンナーなどの薬品を使用しないでください。ミシンが故障する原因となります。
	押えや針などの部品を交換／取り付けする際は、必ず取扱説明書の指示に従って正しく行ってください。

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは、禁じられておりますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容について万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら、「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障害を持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様ご使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

警告ラベルについて

ミシン本体には下記の警告が表示されています。警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。

万一ラベルがはがれていたり、読みとれなくなった場合は速やかに「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。



注意

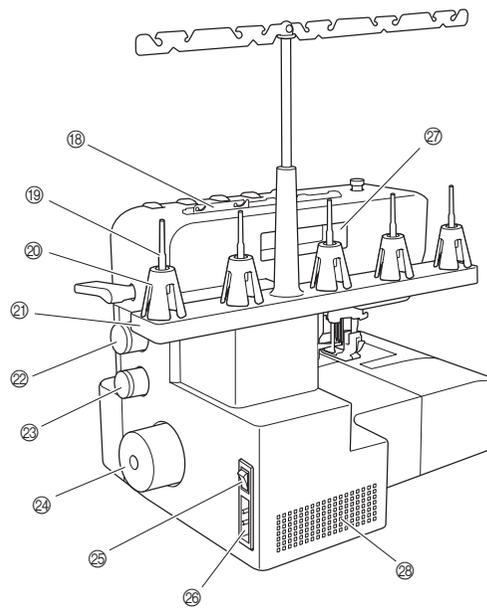
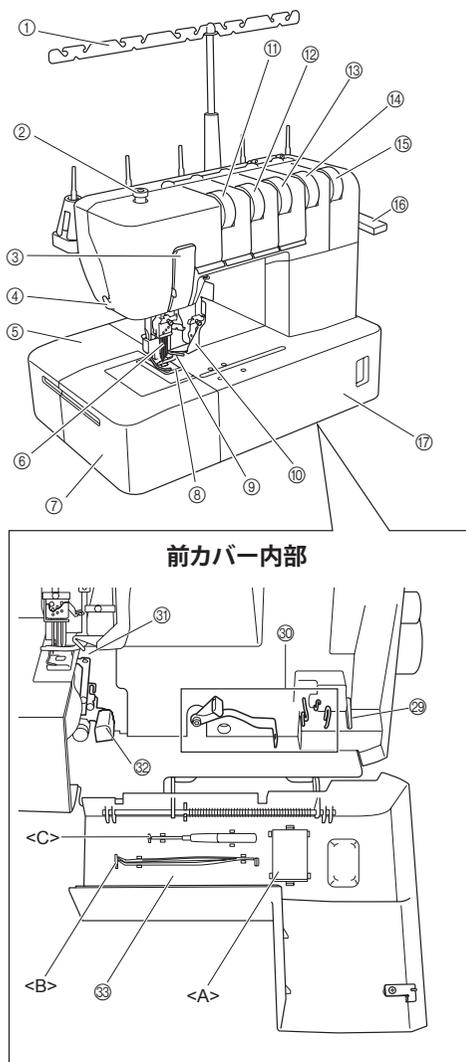
動く部分でけがをする。
カバーを閉めて使用すること。
電源プラグを抜いてから糸通し、掃除や調整をすること。

目次

第1章	
各部の名称と基本操作	6
主要部.....	6
アクセサリ.....	7
ミシンをスタートさせる.....	8
プーリーの使い方.....	8
前カバーの開き方／閉め方.....	8
押えの交換.....	8
筒物をぬうとき（フリーアーム）.....	9
ルーパー糸張力調整レバー.....	9
ぬい目の長さを調節する.....	10
差動送りを調節する.....	10
押え圧を調節する.....	11
糸調子を調節する.....	11
ミシン針.....	12
ミシン針の交換.....	12
第2章	
糸通しの前準備	13
糸かけの準備.....	13
糸こまキャップ.....	13
糸こまマット.....	13
糸こまマットの使い方.....	13
糸こまネットの使い方.....	14
糸通しの前に.....	14
第3章	
糸通し	15
ルーパーに糸を通す.....	15
針に糸を通す.....	16
上飾り用スプレダーと上飾り用糸かけガイドを取り付ける／取り外す.....	17
上飾り用スプレダーに糸を通す.....	18
第4章	
ぬい目、糸数、糸調子対応表	19
第5章	
ぬってみましょう	22
ぬい始める（試しぬいをする（片面ぬい））.....	22
ミシンから布を取り除く（片面ぬい）.....	22
ぬい始める（試しぬいをする（両面ぬい））.....	24
ミシンから布を取り除く（両面ぬい）.....	24
裾引きぬいの仕方.....	26
筒物をぬう（そで口など）.....	26
ぬい始めとぬい終わりを安定させる.....	27
第6章	
困ったときは	28
第7章	
お手入れ	29
掃除.....	29
仕様	30

第1章 各部の名称と基本操作

主要部



- ① 糸かけ
- ② 押え圧調節ねじ
- ③ 糸取りカバー
- ④ 糸切り
- ⑤ アームカバー
- ⑥ ミシン針
- ⑦ 補助テーブル
- ⑧ 押え
- ⑨ 上飾り用スプレダー
- ⑩ 上飾り用糸かけガイド
- ⑪ 左針用糸調子ダイヤル
- ⑫ 中針用糸調子ダイヤル
- ⑬ 右針用糸調子ダイヤル
- ⑭ 上飾り用糸調子ダイヤル
- ⑮ ルーパー用糸調子ダイヤル
- ⑯ 押えレバー
- ⑰ 前カバー
- ⑱ 糸ガイド
- ⑲ 糸たて棒

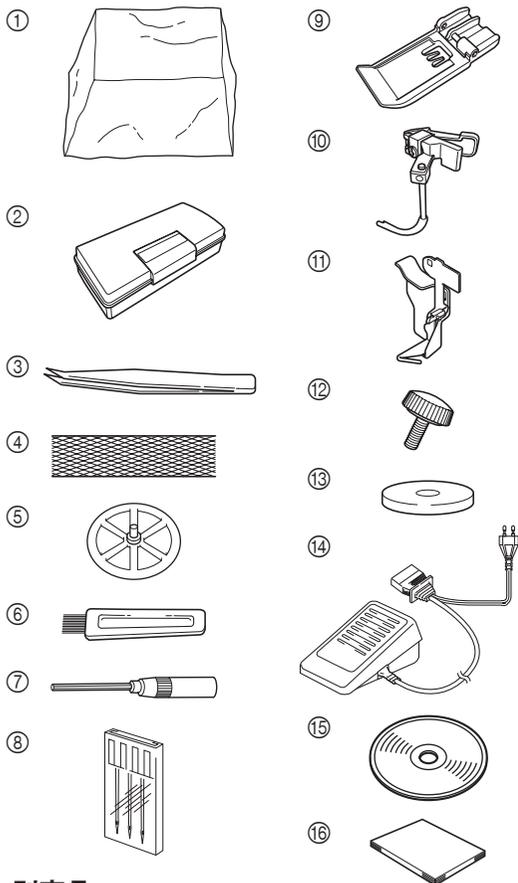
- ⑳ 糸こまクッション
- ㉑ 糸立て台
- ㉒ 送りピッチ調節ダイヤル
- ㉓ 差動送り調節ダイヤル
- ㉔ プーリー
- ㉕ 電源/ライトスイッチ
- ㉖ フットコントローラーソケット
- ㉗ ハンドル
- ㉘ 換気口

前カバー内部

- ㉙ ルーパー糸張力調整レバー
 - ㉚ ルーパー用糸取り
 - ㉛ ルーパー
 - ㉜ ルーパー解除レバー
 - ㉝ アクセサリー収納スペース
- 前カバー内部にこれらの付属品を収納できます。
 <A>: ミシン針、: ピンセット、<C>: ドライバー

アクセサリ

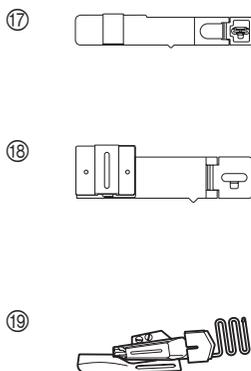
■ 付属品



No.	部品名
①	ミシンカバー
②	アクセサリボックス
③	ピンセット
④	糸こまネット (5)
⑤	糸こまキャップ (5)
⑥	ミシンブラシ
⑦	ドライバー
⑧	ミシン針 (シュメッツ ユニバーサル 130/705 H 90/14) 3本
⑨	透明押え
⑩	上飾り用スプレダー
⑪	上飾り用糸かけガイド
⑫	取り付け用ネジ (2)
⑬	糸こまマット (5)
⑭	フットコントローラー
⑮	取扱説明 DVD
⑯	取扱説明書

■ 別売品

以下のアクセサリをご使用の場合は、付属の押えを使用してください。

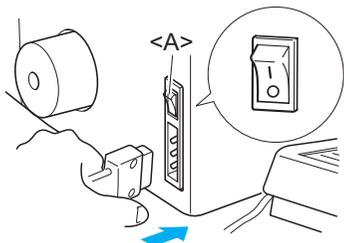


No.	部品名	部品番号
		モデル名
⑰	バイアステープホルダー	SA222CV
⑱	ベルトループガイド	SA223CV
⑲	四つ折りバインダー	SA231CV

ミシンをスタートさせる

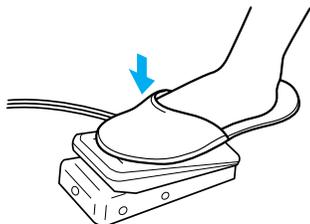
■ ミシンの電源を入れる

1. ミシンの右下側にあるsocketにフットコントローラーを接続します。電源プラグを家庭用電源コンセント (AC 100V) に差し込みます。
2. 電源スイッチ <A> の I 側を押して、電源を入れます。電源を切るときは、O 側を押します。



■ フットコントローラーの使い方

フットコントローラーを浅く踏み込むとゆっくり、深く踏み込むと速くぬい進めます。フットコントローラーから足を離すと、ミシンは止まります。

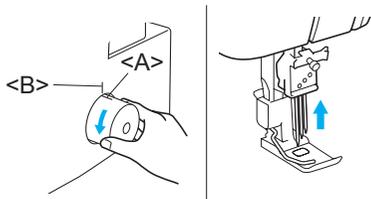


⚠ 注意

- ⚠ フットコントローラーは、必ず付属のものを使用してください。

プーリーの使い方

プーリー <A> は必ず手前 (矢印方向) に回します。これは家庭用ミシンと同じ方向です。プーリーの印 <A> とミシンの印 の位置を合わせると、針が一番高い位置に上がります。

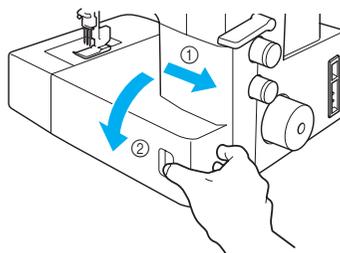


前カバーの開き方／閉め方

前カバーは、ミシンに糸を通すときなどに開きます。開くときは、前カバーを右にスライドさせ ①、手前に倒します ②。閉めるときは、前カバーを閉じて左にスライドさせます。

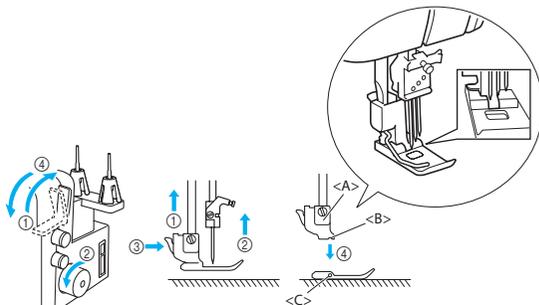
⚠ 注意

- ⚠ 安全のため、ミシン操作中は前カバーを開けないでください。
- ⚠ 前カバーを開閉するときは、必ず事前にミシンの電源スイッチを切ってください。



押えの交換

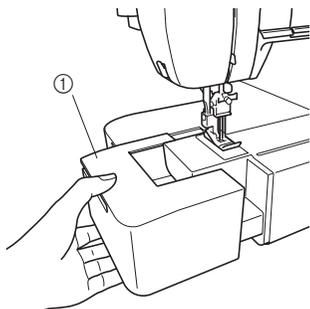
1. 電源スイッチを切るか、コンセントから電源プラグを抜きます。
2. 押えレバーを上げます ①。
3. プーリーを手前に回し、プーリーの印とミシンの印を合わせます ②。(P.8「プーリーの使い方」参照)
4. 押えホルダーの後ろのボタンを押すと、押えが外れます ③。
5. 押えレバーをさらに上げて、押えを一番高い位置まで上げて、押えを取り外します。取り外した押えは安全な場所に保管してください。
6. ふたたび、押さえレバーを上げて押さえを一番高い位置まで上げます。押えを押えホルダー <A> の下に置き、押えホルダーの底のミゾ と、取り付ける押えの取り付けバー <C> の位置を合わせ、押さえレバーを下げて押えを取りつけます ④。



筒物をぬうとき（フリーアーム）

筒状の布をぬうときは、補助テーブルを外してフリーアームにします。

1. 補助テーブルを外します。

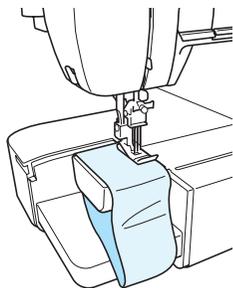


① 補助テーブル

お知らせ

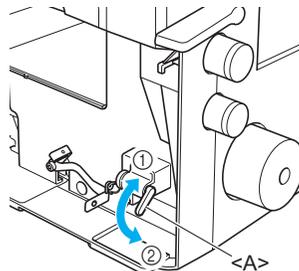
取り外した補助テーブルは、なくさないように保管してください。

2. 布をセットし、ぬい始めます。
(第5章参照)



ルーパー系張力調整レバー

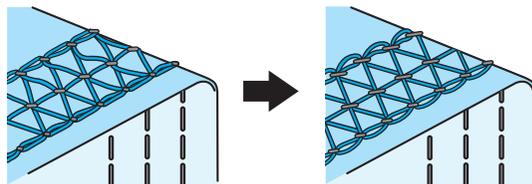
ルーパー系張力調整レバーで、ルーパー系の調整をすることができます。伸縮する布や送りピッチが細かい場合、レバーを上げてルーパー系の張りを強くします。伸縮しない布や送りピッチが広い場合は、レバーを下げてルーパー系の張りを弱くします。



- ① レバーを上げるとルーパー系の張りが強くなります。
 - ② レバーを下げるとルーパー系の張りが弱くなります。
- <A> ルーパー系張力調整レバー

■ サージなどの伸縮しない布地

ルーパー系の張りを弱くします。

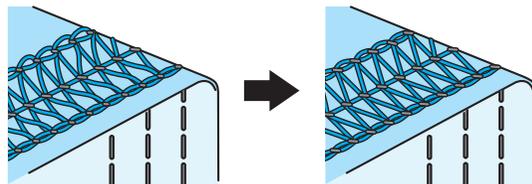


レバーの位置：中央

レバーの位置：下

■ ニットなどの伸縮する布地

ルーパー系の張りを強くします。

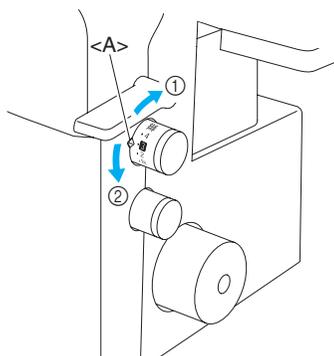


レバーの位置：中央

レバーの位置：上

ぬい目の長さを調節する

ぬい目の長さは、通常 3 mm に設定されています。
ぬい目の長さは、ミシン右側面の送りピッチ調節ダイヤルで調節します。



- ① ぬい目を短くする (2 ~ 3 mm)
- ② ぬい目を長くする (3 ~ 4 mm)
- <A> 選択マーク

差動送りを調節する

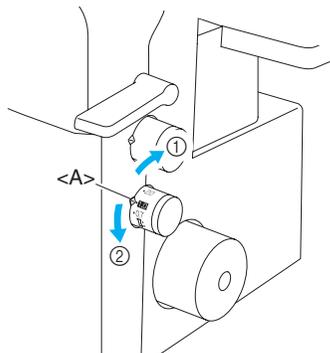
本ミシンの押えの下には、布を送るための送り歯が 2 歯備えられています。差動送りの調節とは、差動送り歯（前方）とメイン送り歯（後方）の布送り量を変えて、ぬい目を調節することです。差動送りは、送り歯の前後の動きを制御します。

- ・ 差動送りを 1.0 に設定した場合：
両送り歯は同じ布送り量で動きます。
- ・ 差動送りを 1.0 以下に設定した場合：
差動送り歯の布送り量はメイン送り歯の布送り量より小さく、布を伸ばしながらぬいます。薄地のパッカリングを防止します。
- ・ 差動送りを 1.0 以上に設定した場合：
差動送り歯の布送り量はメイン送り歯の布送り量より大きく、布を縮めながらぬいます。伸縮性のある布地のぬい伸びを防止します。

■ 差動送り調節

差動送り調節値	メイン送り歯（後方）	差動送り調節（前方）	ぬい方	使用例
1.0 以下			布を伸ばしながらぬう	薄地のパッカリング防止
1.0			通常通りぬう	通常のぬい
1.0 以上			布を縮めながらぬう	伸縮性のある布地のぬい伸び防止

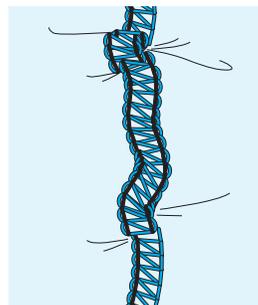
差動送り調整ダイヤルの通常の設定は、1.0 です。
差動送りは、ミシン右側面の差動送り調節ダイヤルで調節します。



- ① 1.0 以下
- ② 1.0 以上
- <A> 選択マーク

例

差動送りの調節をしないで伸縮性のある布地をぬうと、布端が波状になります。



ぬい目をなめらかにするには、差動送りを 1.0 ~ 2.0 に調節します。

より伸縮しやすい布の場合は、差動送りが 2.0 に近くなるように調整します。

📢 お知らせ

適切な調節値は、素材によって異なります。

適切な値を見つけるには、実際に試しぬいをしてください。

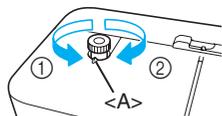
⚠️ 注意

デニムのように厚地で伸縮性がない布地をぬう場合は、差動送りをしないでください。布地を傷める原因になります。

押え圧を調節する

押え圧は、ミシン左上の押え圧調節ねじで、ねじの値を参照して調節します。

通常は2に設定します。



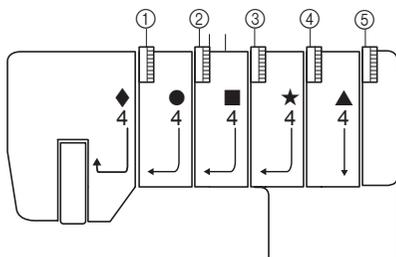
- ① 圧力を弱くする
- ② 圧力を強くする
- <A> 選択マーク

糸調子を調節する

糸調子を調節する糸調子ダイヤルは、すべての針糸、ルーパー糸、上飾り糸に対して1つずつあります。

お知らせ

適切な糸調子は、布地の種類や厚み、使用する糸によって異なります。糸調子は、布地や糸を変えるたびに調節してください。

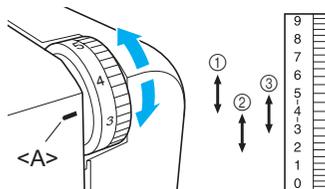


- ① 黄色：左針用糸調子ダイヤル
- ② 緑色：中針用糸調子ダイヤル
- ③ ピンク：右針用糸調子ダイヤル
- ④ 紫色：上飾り用糸調子ダイヤル
- ⑤ 青色：ルーパー用糸調子ダイヤル

■ 調節する

通常、糸調子を「4」に設定します。(スパン糸 #60 推奨)

きれいなぬい目にならないときは、糸調子ダイヤルで調節します。



- ① 強くする：4～6
- ② 弱くする：4～2
- ③ 中間：5～3
- <A> 糸調子選択マーク

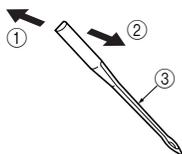
! 注意

- ! 糸調子皿に糸が正しく通っていることを確認してください。

ミシン針

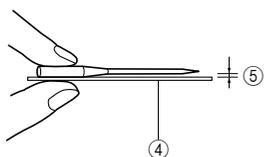
このミシンで使用するミシン針には、シュメツ ユニバーサル 130/705 H 90/14 を推奨します。

■ ミシン針の見方



- ① 後ろ側（平らな面）
- ② 手前側
- ③ 長ミゾ

■ 正しいミシン針の見分け方



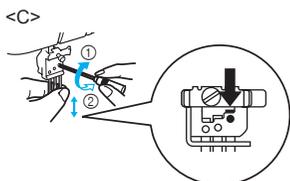
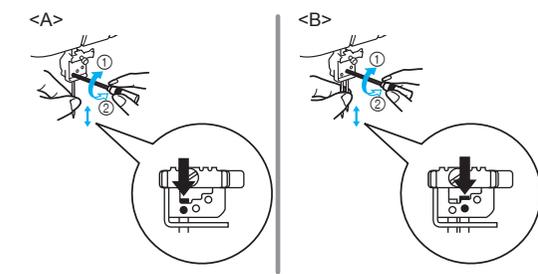
- ④ 平らな板
- ⑤ 針の平らな面と板を合わせて、針と板のすき間が平行かどうかを確認します。

🔔お知らせ

別売のシュメツ ボールポイントジャージー針 130/705 H SUK 90/14 をご使用いただくと、布地の織り糸切れを防ぐことができます。

ミシン針の交換

- <A> 左針の取り付け／取り外し
- 中針の取り付け／取り外し
- <C> 右針の取り付け／取り外し



- ① しめる
- ② ゆるめる

取り外し方：

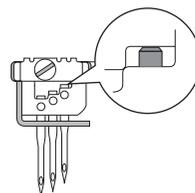
1. 電源スイッチを切ります。
2. プーリーを手前に回し、プーリーの印とミシンの印を合わせます（針が一番高い位置に上がります）。(P.8「プーリーの使い方」参照)
3. 付属のドライバーを使って、外したい針の針締めねじを図の②の方向に回してゆるめ、ミシン針を外します。

取り付け方：

1. 電源スイッチを切ります。
2. プーリーを手前に回し、プーリーの印とミシンの印を合わせます（針が一番高い位置に上がります）。
3. 針の平らな面を後ろにして、上部が突き当たるまで完全にミシン針を差し込みます。
4. 付属のドライバーを使って、針締めねじを図の①の方向に回して締め、ミシン針を取り付けます。

🔔お知らせ

ミシン針は完全に差し込んでください。



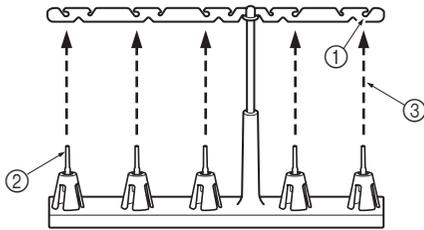
⚠️注意

- ❗ ミシン針の交換は、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- ❗ ミシン針や針締めねじを針穴に落とさないように注意してください。故障の原因になります。

第2章 糸通しの前準備

糸かけの準備

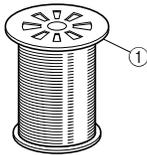
糸かけを一番高い位置まで引き伸ばします。下図のように、糸かけミゾが糸たて棒の真上にあることを確認します。



- ① 糸かけミゾ
- ② 糸たて棒
- ③ 正しい位置

糸こまキャップ

このミシンは、チーズ巻き糸と、こま巻き糸が使用できます。こま巻き糸を使うときは、スプールクッションを外し、糸止めミゾのあるほうを下にして糸たて棒にさし、必ず糸こまキャップを使います。



- ① 糸こまキャップ

注意

こま巻き糸を使うときは、必ずスプールクッションを外してください。



チーズ巻き糸を使うときは、必ずスプールクッションを使用してください。

糸こまキャップを奥までいっぱい押し込んでいないと、糸たて棒に糸がからまり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

糸こまマット

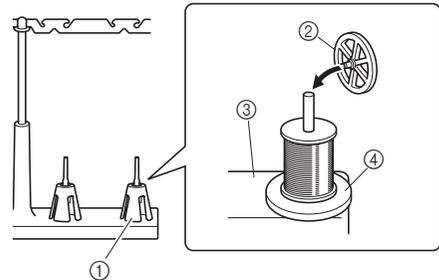
こま巻きタイプの糸、糸がすべり落ちやすいウーリー糸などを使用するときは、このマットを糸こまの下に敷いてお使いください。

糸がたれ落ちて、糸たて棒にからまることを防ぎます。



糸こまマットの使い方

1. 糸こまクッションを外し、糸こまマットを糸たて棒に取り付けます。
2. 糸こまを、糸止めミゾのある側を下にして糸たて棒にはめ、その上から糸こまキャップを奥いっぱいまで押し込み取り付けます。



- ① 糸こまクッション
- ② 糸こまキャップ
- ③ 糸立て台
- ④ 糸こまマット

注意

こま巻きの場合は糸こまキャップを糸こまにくよくように奥までいっばいに押し込んでいないと、糸たて棒に糸が絡まり、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

糸こまネットの使い方

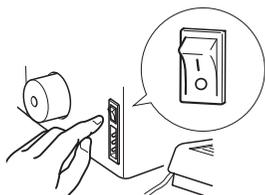
ウーリーナイロン糸やすべりやすい糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットしてください。

糸こまネットは、糸こまの大きさに合わせて使用します。

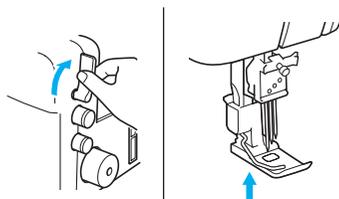


糸通しの前に

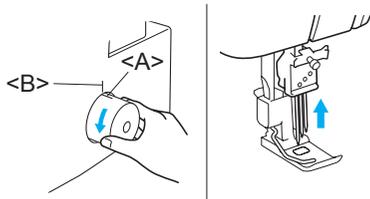
1. 安全のため、電源スイッチを切ります。



2. 押えレバーを使って、押えを上げます。



3. プーリーを手前に回し、プーリーの印 <A> とミシンの印 を合わせます (針が一番高い位置に上がります)。(P.8「プーリーの使い方」参照)



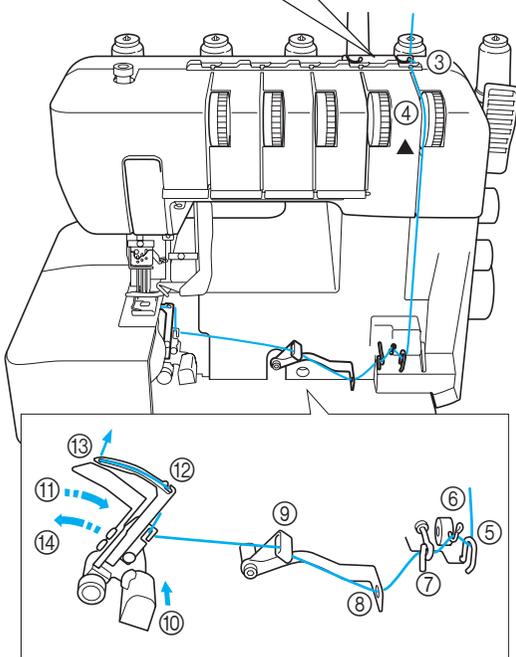
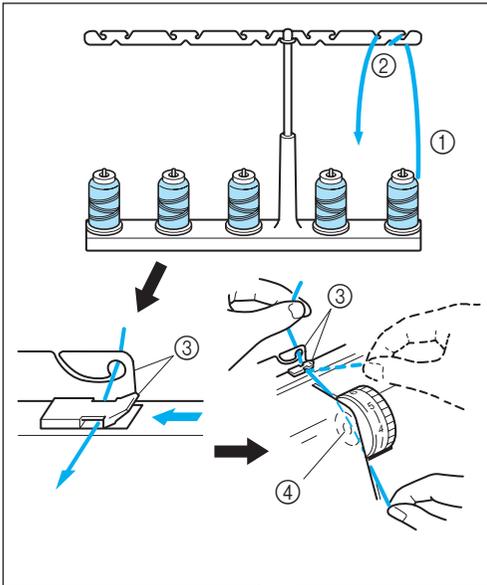
第3章 糸通し

⚠️ 注意

❗ 安全のために、糸通しをする前にミシンの電源を切ってください。

ルーパーに糸を通す

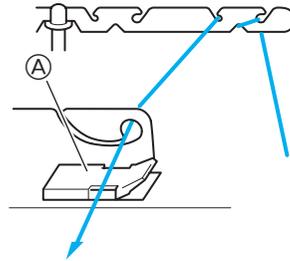
ミシンに青色で示した矢印と番号に従って、糸を通していきます。



1. 前カバーを右にスライドさせ、前に倒して開きます。
2. 糸こまから、糸かけに向かって上へ糸を引き出し①、糸かけのミゾ②に後ろから前へ、糸をかけます。
3. 図のようにルーパー糸を通します③。
4. 青色の▲がついた糸調子ダイヤルの横の糸調子皿④に糸を通します。
5. 糸を引き下げ、図の⑤-⑨に順番に糸を通します。
6. ⑨に糸を通した後、ルーパー解除レバーを押して⑩ルーパーを右に倒し⑪、⑫-⑬に糸を通します。
7. ルーパーの穴から、糸を10cm程度引き出します。
8. ルーパーを押して⑭元の位置に戻します。
9. 前カバーを閉じます。

お知らせ

飾り糸などの太い糸は、図のように通してください。



Ⓐには糸を通しません。

針に糸を通す

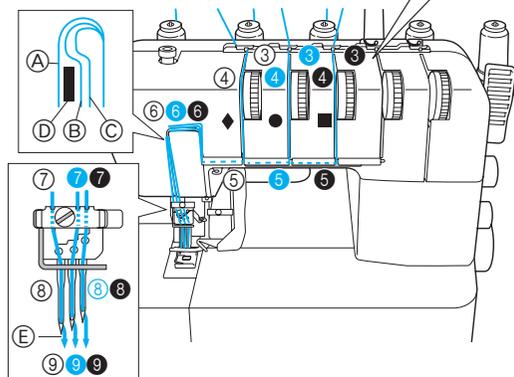
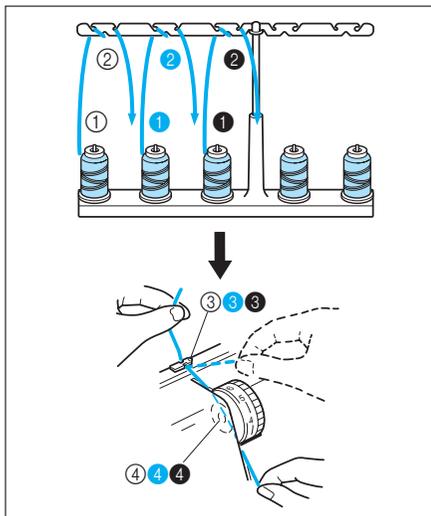
■ めい目にあわせて針系を使い分ける

トリプルカバーステッチ（3本針、4本糸）では、左針糸、中針糸、右針糸を使います。

カバーステッチ（2本針、3本糸）（6mm幅）では、左針糸、右針糸を使います。

カバーステッチ（2本針、3本糸）（3mm幅）では、中針糸、右針糸を使います。

チェーンステッチでは、中針糸を使います。



- ① 左針へ
- ② 中針へ
- ③ 右針へ
- ④ セパレーター
- ⑤ 針穴から6cm程度引き出します。
- ⑥⑦⑧ 針穴の前から後ろへ糸を通す

左針に糸を通す

ミシンに記された黄色の◆印と番号に従って、図の順番に糸を通します。（①-⑥）

中針に糸を通す

ミシンに記された緑色の●印と番号に従って、図の順番に糸を通します。（①-⑥）

右針に糸を通す

ミシンに記されたピンク色の■印と番号に従って、図の順番に糸を通します。（①-⑥）

⚠注意

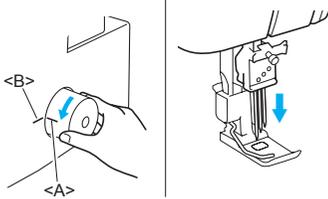
⚠ 糸は、必ず左針、中針、右針の順番で通してください。

1. 糸こまから、糸かけに向かって上へ糸を引き出し①①①、糸かけのミゾ②②②に後ろから前へ、糸をかけます。
2. 図のように、各糸を③③③に通します。
3. 糸調子ダイヤル横の糸調子皿④④④に糸を通します。
4. 糸を引き下げ、ミシンに各色で印が記されている⑤⑤⑤-⑧⑧⑧へ、図の番号順に糸を通します。
5. 針穴に、前から後ろへ糸を通します。

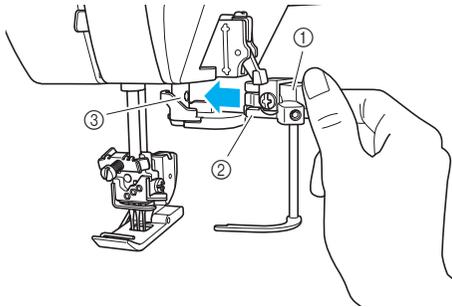
上飾り用スプレダーと 上飾り用糸かけガイドを 取り付ける／取り外す

■ 上飾り用スプレダーと上飾り用糸かけガイド を取り付ける

1. プーリーを手前に回し、プーリーの印<A>とミシンの印を合わせます。

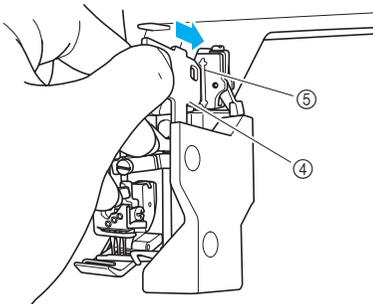


2. 上飾り用スプレダーのグリップをつまんで先端を開き、右側から、上飾り用スプレダーの固定軸を上飾り駆動軸にしっかりと取り付けます。



- ① 上飾り用スプレダーのグリップ
- ② 上飾り用スプレダーの固定軸
- ③ 上飾り駆動軸

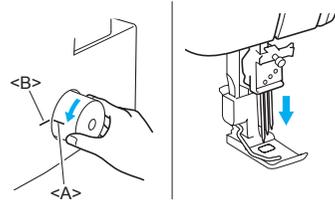
3. 上飾り用糸かけガイドを上飾り用糸かけガイドの台座のミゾに差し込みます。



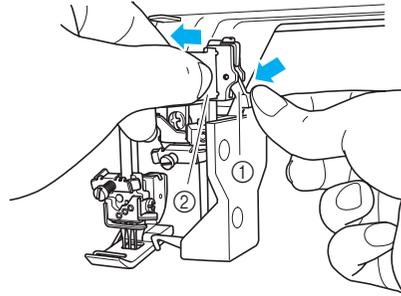
- ④ 上飾り用糸かけガイド
- ⑤ ミゾ

■ 上飾り用スプレダーと上飾り用糸かけガイド を取り外す

1. プーリーを手前に回し、プーリーの印<A>とミシンの印を合わせます。

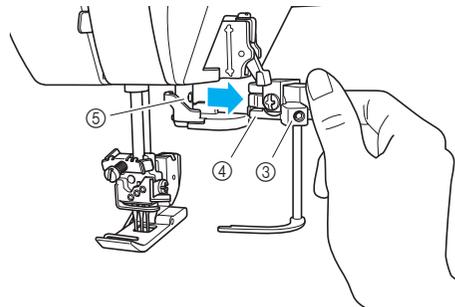


2. 上飾り用糸かけガイドのレバーを押して、上飾り用糸かけガイドを取り外します。



- ① レバー
- ② 上飾り用糸かけガイド

3. 上飾り用スプレダーのグリップをつまんで先端を開き、上飾り用スプレダーの固定軸を上飾り駆動軸から外します。



- ③ 上飾り用スプレダーのグリップ
- ④ 上飾り用スプレダーの固定軸
- ⑤ 上飾り駆動軸

上飾り用スプレダーに糸を通す

お知らせ

最初にカバーステッチのぬい目を作ってから、上飾り糸を通してください。

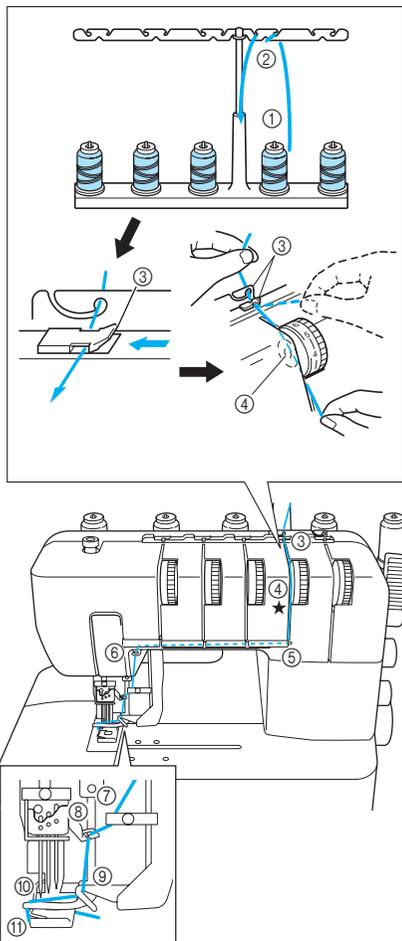
■ ぬい目にあわせて針糸を使い分ける

両面トリプルカバーステッチ（3本針、5本糸）では、左針糸、中針糸、右針糸を使います。

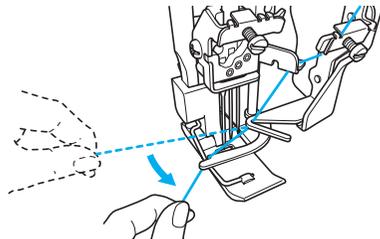
両面カバーステッチ（2本針、4本糸）（6mm幅）では、左針糸、右針糸を使います。

両面カバーステッチ（2本針、4本糸）（3mm幅）では、中針糸、右針糸を使います。

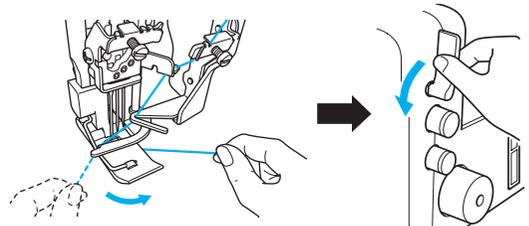
ミシンに記された紫色の印と番号に従って、図の順番に糸を通します。



1. 糸こまから、糸かけに向かって上へ糸を引き出し①、糸かけのミゾ②に後ろから前へ、糸をかけます。
2. 図に示した③に各糸を通します。
3. 紫色の★がついた糸調子ダイヤルの横の糸調子皿④に糸を通します。
4. 糸を引き下げ、ミシンに記された紫色の印がついた箇所（図の⑤-⑨）に番号順に糸を通します。
5. プーリーを手前（反時計回り）に回し、上飾り用スプレダーの先端部分が真左にくるようにします。
6. 図の⑩のように、飾り用スプレダーの先端部分に糸をかけます。



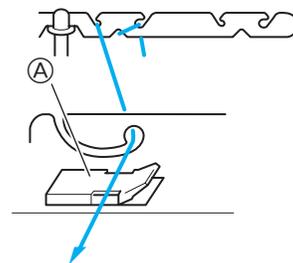
7. 上飾り糸を、左図の⑪のように押えの下を左から右へ通し、上飾り糸が緩まないように押えを下げます。



8. プーリーを手前（反時計回り）に2～3回し、上飾り糸がぬい目の形を形成することを確認します。ぬい目の確認後、上飾り糸が長すぎる、また、上飾り糸が詰まるなど、必要があれば余分な糸をはさみで切ってください。

お知らせ

飾り糸などの太い糸を上飾り糸として使う場合は、図のように通してください。



①には糸を通しません。

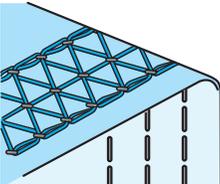
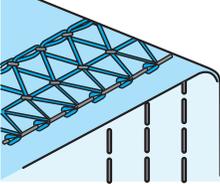
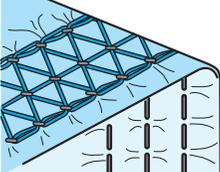
第4章 ぬい目、糸数、糸調子対応表

ぬい目の種類	ミシン針の数	糸数	糸調子ダイヤル					ぬい目
			左針	中針	右針	上飾り糸	ルーパー糸	
トリプルカバーステッチ	3	4	2-5	2-5	2-5		2-5	
カバーステッチ (6mm幅)	2	3	3-5	-	3-5		2-5	
カバーステッチ (3mm幅)	2	3	-	3-5	3-5		2-5	
チェーンステッチ	1	2	-	2-5	-		2-5	
両面トリプルカバーステッチ	3	5	3-5	3-5	3-5	3-5	3-5	
両面カバーステッチ (6mm幅)	2	4	3-5	-	3-5	3-5	3-5	
両面カバーステッチ (3mm幅)	2	4	-	3-5	3-5	3-5	3-5	

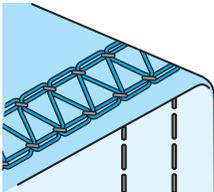
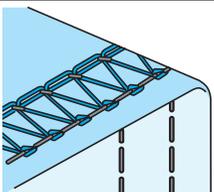
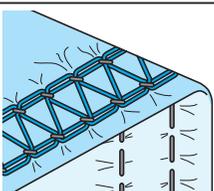
お知らせ

上記の糸調子ダイヤルの設定値は、ぬい目の長さが3、差動送りが1.0の場合です。布地の種類や使用する糸によって設定は異なりますので、糸調子は必ず確認するようにしてください。

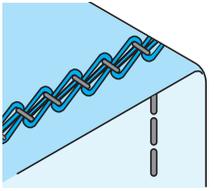
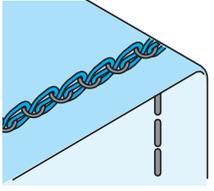
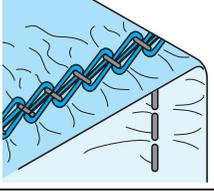
■ トリプルカバーステッチ

 <p style="text-align: center;">↑ ステッチの向き</p>	<p>正しい糸調子 針糸が布の表面をまっすぐにぬい進み、ルーパー糸が裏面に輪を形成します。</p>
	<p>針糸がゆるい 針用糸調子ダイヤルを大きい数字の方へ回して糸調子を強めるか、またはルーパー用糸調子ダイヤルを小さい数字の方へ回して糸調子を弱めます。</p>
	<p>針糸がきつい 針用糸調子ダイヤルを小さい数字の方へ回して糸調子を弱めるか、またはルーパー用糸調子ダイヤルを大きい数字の方へ回して糸調子を強めます。</p>

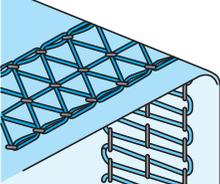
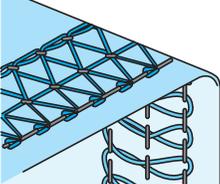
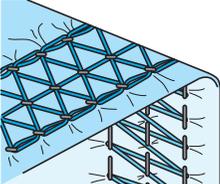
■ カバーステッチ (6 mm 幅 / 3 mm 幅)

	 <p>ステッチの向き</p>	<p>正しい糸調子 針糸が布の表面をまっすぐにぬい進み、ルーパー糸が裏面に輪を形成します。</p>
		<p>針糸がゆるい 針用糸調子ダイヤルを大きい数字の方へ回して糸調子を強めるか、またはルーパー用糸調子ダイヤルを小さい数字の方へ回して糸調子を弱めます。</p>
		<p>針糸がきつい 針用糸調子ダイヤルを小さい数字の方へ回して糸調子を弱めるか、またはルーパー用糸調子ダイヤルを大きい数字の方へ回して糸調子を強めます。</p>

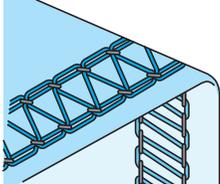
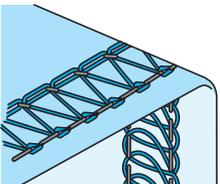
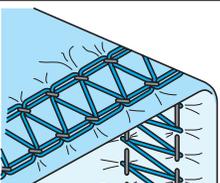
■ チェーンステッチ

	 <p>ステッチの向き</p>	<p>正しい糸調子 針糸が布の表面をまっすぐにぬい進み、ルーパー糸が裏面に輪を形成します。</p>
		<p>針糸がゆるい 針用糸調子ダイヤルを大きい数字の方へ回して糸調子を強めるか、またはルーパー用糸調子ダイヤルを小さい数字の方へ回して糸調子を弱めます。</p>
		<p>針糸がきつい 針用糸調子ダイヤルを小さい数字の方へ回して糸調子を弱めるか、またはルーパー用糸調子ダイヤルを大きい数字の方へ回して糸調子を強めます。</p>

■ 両面トリプルカバーステッチ

 <p data-bbox="452 270 603 357">↑ ステッチの向き</p>	<p>正しい糸調子 針糸と上飾り糸が布の表面をまっすぐにぬい進み、ルーパース糸が裏面に輪を形成します。</p>
	<p>上飾り糸がゆるい 上飾り用糸調子ダイヤルを大きい数字の方へ回して糸調子を強めるか、または針用糸調子ダイヤルを小さい数字の方へ回して糸調子を弱めます。</p>
	<p>上飾り糸がきつい 上飾り用糸調子ダイヤルを小さい数字の方へ回して糸調子を弱めるか、または針用糸調子ダイヤルを大きい数字の方へ回して糸調子を強めます。</p>

■ 両面カバーステッチ (6 mm 幅 / 3 mm 幅)

 <p data-bbox="452 956 603 1043">↑ ステッチの向き</p>	<p>正しい糸調子 針糸と上飾り糸が布の表面をまっすぐにぬい進み、ルーパース糸が裏面に輪を形成します。</p>
	<p>上飾り糸がゆるい 上飾り用糸調子ダイヤルを大きい数字の方へ回して糸調子を強めるか、または針用糸調子ダイヤルを小さい数字の方へ回して糸調子を弱めます。</p>
	<p>上飾り糸がきつい 上飾り用糸調子ダイヤルを小さい数字の方へ回して糸調子を弱めるか、または針用糸調子ダイヤルを大きい数字の方へ回して糸調子を強めます。</p>

第5章 ぬってみましょう

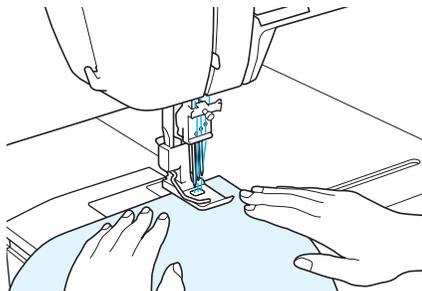
⚠注意



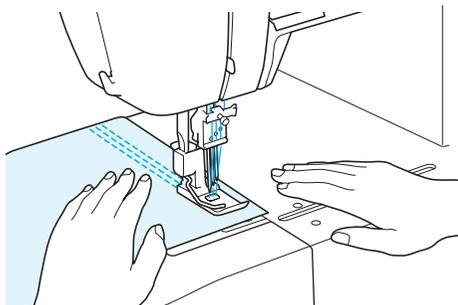
ミシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針、ルーパー、上飾り部品などのすべての動いている部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。

ぬい始める (試しぬいをする (片面ぬい))

1. 押えレバーを上げ、針落ち位置に布を置きます。

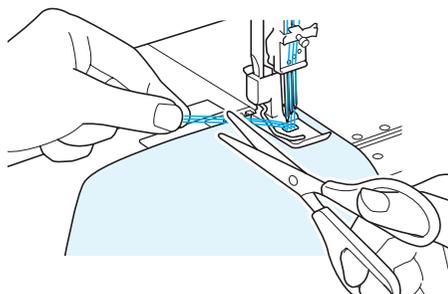


2. 押えレバーを下げてからプーリーを手前に数回回し、フットコントローラーを踏み込みます。



📌お知らせ

糸通し直後は押えの上側に針糸があるため、プーリーを回したときに針糸が押えの下に引き込まれながらぬわれます。糸が長すぎるなど、必要があれば下図のように余分な糸をはさみで切ってください。

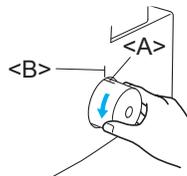


📌お知らせ

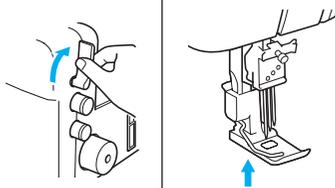
伸縮する布地をぬうときは、差動送りを調節して仕上がりを確認してください。

ミシンから布を取り除く (片面ぬい)

1. プーリーを手前に回し、プーリーの印<A>とミシンの印の位置を合わせます (針が一番高い位置に上がります)。



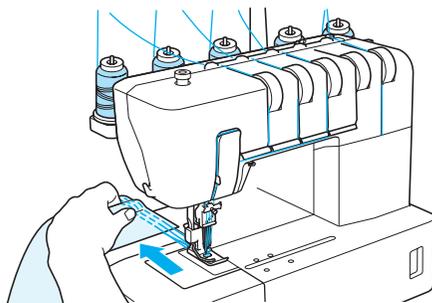
2. 押えレバーを上げます。



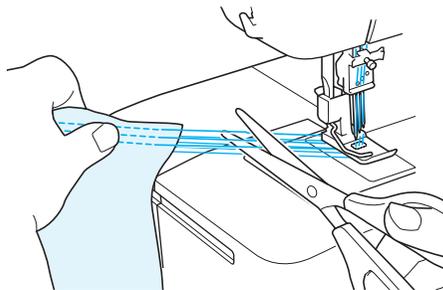
3. 図のように、矢印の方向にゆっくりと、ぬい目と一緒に布地を引っ張ります。

📌お知らせ

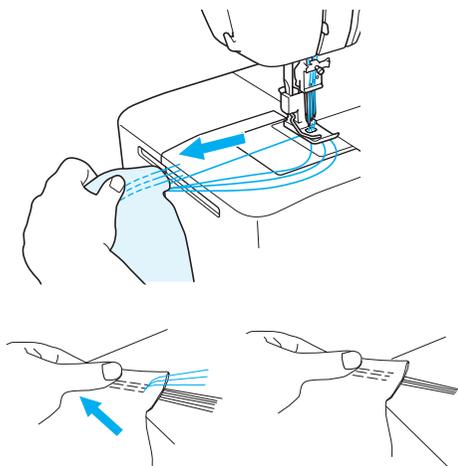
布地は必ず後ろ方向に引っ張ってください。



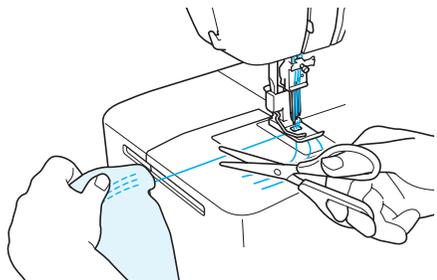
4. 布地の表から出ている針糸をはさみで切ります。



5. 図のように、矢印の方向にゆっくりと布地を引っ張り、針糸を布地の裏に引き出します。



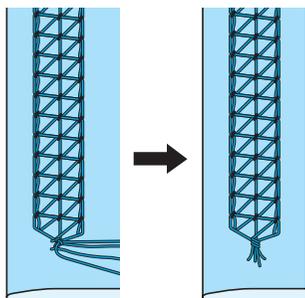
6. 結べる長さで、ルーパー糸を切ります。



お知らせ

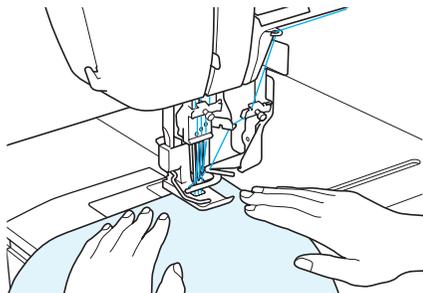
ルーパー糸は、はさみで切ることをおすすめします。
ミシンの糸切りで切ることもできます。

7. 布地の裏に引き出した糸を束ねて結び、切ります。

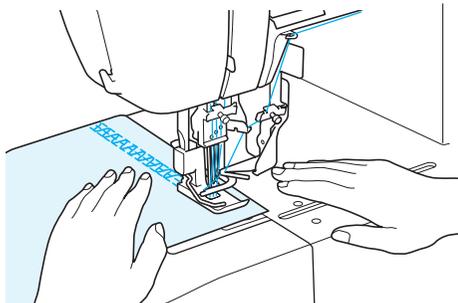


ぬい始める (試しぬいをする (両面ぬい))

1. 上飾り糸を押えの下に通して (P.18 参照)、押えレバーを上げ、針落ち位置に布を置きます。

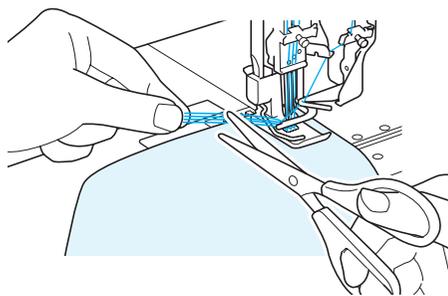


2. 押えレバーを下げてからプーリーを手前に数回回し、フットコントローラーを踏み込みます。

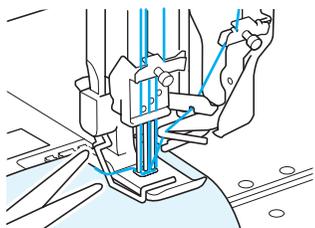


お知らせ

糸通し直後は押えの上側に針糸があるため、プーリーを回したときに針糸が押えの下に引き込まれながらぬわれます。糸が長すぎるなど、必要があれば下図のように余分な糸をはさみで切ってください。



このとき、上飾り糸も、糸が長すぎるなど、必要があれば余分な糸をはさみで切ってください。

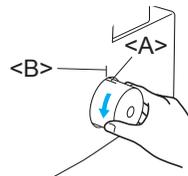


お知らせ

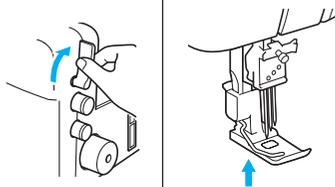
伸縮する布地をぬうときは、差動送りを調節して仕上がりを確認してください。

ミシンから布を取り除く (両面ぬい)

1. プーリーを手前に回し、プーリーの印 <A> とミシンの印 の位置を合わせます (針が一番高い位置に上がります)。



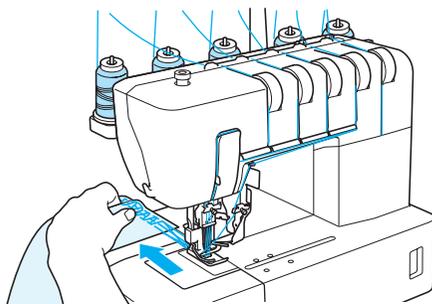
2. 押えレバーを上げます。



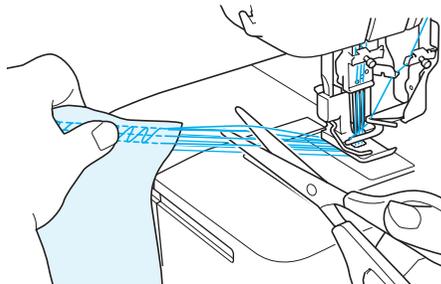
3. 図のように、矢印の方向にゆっくりと、ぬい目と一緒に布地を引っ張ります。

お知らせ

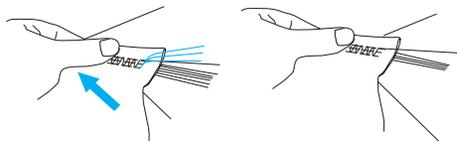
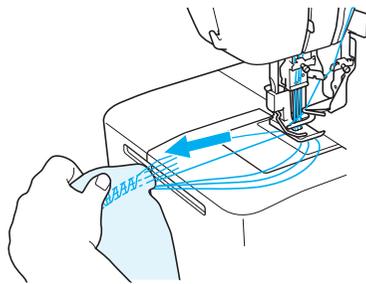
布地は必ず後ろ方向に引っ張ってください。



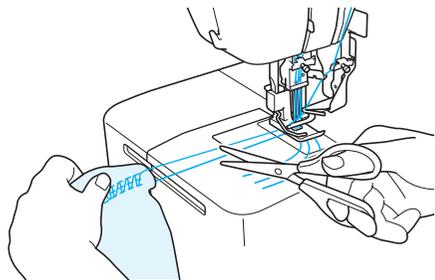
4. 布地の表から出ている針糸をはさみで切ります。



5. 図のように、矢印の方向にゆっくりと布地を引っ張り、針糸を布地の裏に引き出します。



6. 結べる長さで、上飾り糸とルーパー糸を切ります。

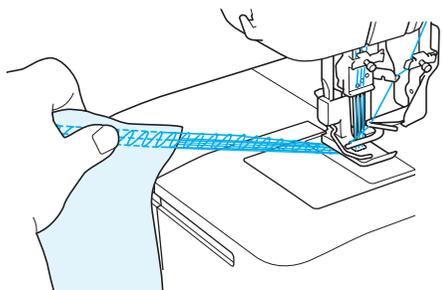


お知らせ

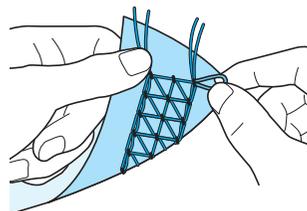
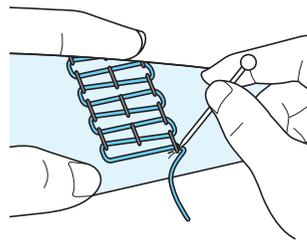
ルーパー糸は、はさみで切ることをおすすめします。ミシンの糸切りで切ることもできます。

お知らせ

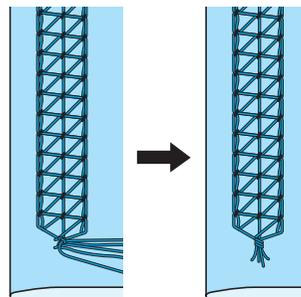
端までぬうときは、下図のように空ぬいをしてから切ることもできます。



7. 表に出ている上飾り糸を、針など先端が尖ったもので針糸の穴に押し込んで、布地の裏へ引き出します。

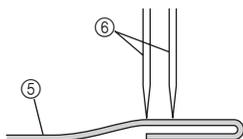
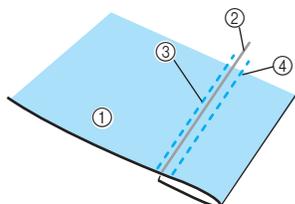


8. 布地の裏に引き出した糸を束ねて結び、切ります。



裾引きぬいの仕方

1. 折り曲げる布地の幅を決めます。
2. 折り曲げた布地にアイロンをかけます。
3. 折り曲げた布端の位置を定規で測り、布用のペンを使って、ぬうための線を引きます。
4. 押えを下げ、布地に引いた線が左針落ち位置の少し右側に見えることを確認します。
5. 線に沿ってぬいます。
6. ぬい終わったら P.22 「ミシンから布を取り除く (片面ぬい)」を参照して、糸の始末をします。

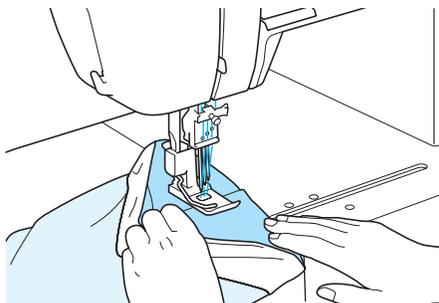


- ① 布地 (表面)
- ② マーカー線
- ③ 左針落ち位置 (マーカー線よりやや左側)
- ④ 右針落ち位置
- ⑤ 布地
- ⑥ ミシン針

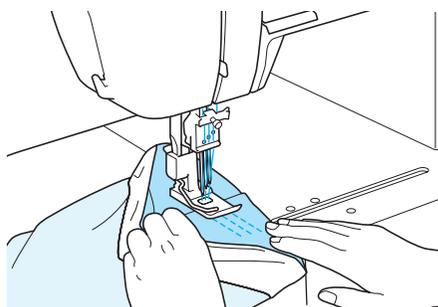
筒物をぬう (そで口など)

■ フリーアーム以外でぬう

1. 押えを上げてから下図のように布地を入れた後、押えを下げてぬいます。



2. ぬい終わりは、ぬい始めとぬい終わりが4cmほど重なるようにぬいます。



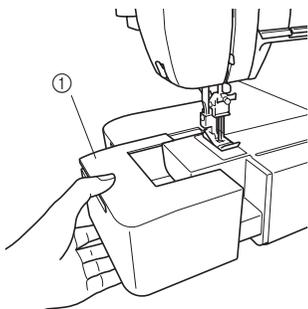
お知らせ

筒ものぬいをするとき、ぬい始めとぬい終わりを4cm重ねてぬうことで、ぬい目がほつれにくくなります。

3. P.22 「ミシンから布を取り除く (片面ぬい)」または P.24 「ミシンから布を取り除く (両面ぬい)」を参照して、布地をミシンから取り除きます。

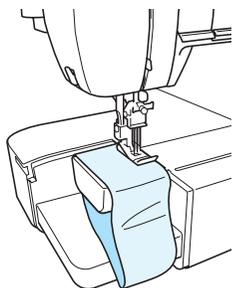
■ フリーアームでぬう

1. 補助テーブルを外します。



① 補助テーブル

2. 布地をセットし、ぬい始めます。
(P.22「ぬい始める (試しぬいをする (片面ぬい))」または P.24「ぬい始める (試しぬいをする (両面ぬい))」参照)



- (1) 押えを上げてから図のように布地を入れた後、押えを下げてぬいます。
- (2) ぬい終わりは、ぬい始めとぬい終わりが 4 cm ほど重なるようにぬいます。

🔔 お知らせ

筒ものぬいをするとき、ぬい始めとぬい終わりを 4cm 重ねてぬうことで、ぬい目がほつれにくくなります。

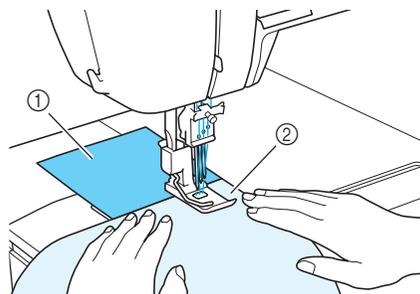
3. P.22「ミシンから布を取り除く (片面ぬい)」または P.24「ミシンから布を取り除く (両面ぬい)」を参照して、布地をミシンから取り除きます。

ぬい始めとぬい終わりを安定させる

4cm 四方の端切れを使って、ぬい始めとぬい終わりを安定させます。

■ ぬい始め

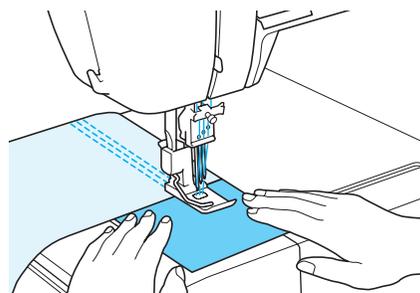
1. 押えレバーを上げて、端切れを押えの下に入れます。押えレバーを下げてからプーリーを手前に回し、フットコントローラーを踏み込みます。
2. 端切れがぬい終わりに近づいたら、ミシンを停止します。下図のように布地を入れてから、フットコントローラーを軽く踏んでぬいます。



① 端切れ
② 布地

■ ぬい終わり

1. 布地がぬい終わりに近づいたら、ミシンを停止します。下図のように端切れを入れてから、最後までぬいます。
2. 布地と端切れをぬったらミシンを停止し、布地と端切れの間の糸を切ります。



第6章 困ったときは

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に以下の項目を確認してください。それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

不具合	原因	解決方法
1. 布を送らない	押え圧が弱すぎる。	押え圧調節ねじを時計回りに回して、押え圧を強める。 (P.11 参照)
2. ミシン針が折れる	1. ミシン針が曲がっている。または針先がつぶれている。	新しいミシン針と交換する。 (P.12 参照)
	2. ミシン針が正しく取り付けられていない。	ミシン針を正しく取り付ける。 (P.12 参照)
	3. 布地を無理やり引っ張っている。	縫製中、布地を強く押ししたり引っ張ったりしない。
3. 糸が切れる	1. 糸通し方法が間違っている。	正しく糸通しをする。 (P.15、16、18 参照)
	2. 糸がからまっている。	糸こま、糸かけホルダーなどを確認し、からまっている糸をほどく。
	3. 糸調子が強すぎる。	糸調子を調節する。 (P.11 参照)
	4. ミシン針が正しく取り付けられていない。	ミシン針を正しく取り付ける。 (P.12 参照)
	5. 正しいミシン針を使用していない。	正しいミシン針を使う。 (推奨するミシン針：シュメッツ ユニバーサル 130/705 H 90/14) (P.12 参照)
4. ぬい目がとぶ	1. ミシン針が曲がっている、または針先がつぶれている。	新しいミシン針と交換する。 (P.12 参照)
	2. ミシン針が正しく取り付けられていない。	ミシン針を正しく取り付ける。 (P.12 参照)
	3. 正しいミシン針を使用していない。	正しいミシン針を使う。 (推奨するミシン針：シュメッツ ユニバーサル 130/705 H 90/14) (P.12 参照)
	4. 糸通し方法が間違っている。	正しく糸通しをする。 (P.15、16、18 参照)
	5. 押え圧が弱すぎる。	押え圧調節ねじを時計回りに回して、押え圧を強める。 (P.11 参照)
5. ぬい目が均一でない	糸調子が適切に調節されていない。	糸調子を調節する。 (P.11 参照)
6. ぬい縮がある	1. 糸調子が強すぎる。	軽量または薄手の布地をぬうときは、糸調子を弱める。 (P.11 参照)
	2. 糸通し方法が間違っている、または糸がからまっている。	正しく糸通しをする。 (P.15、16、18 参照)

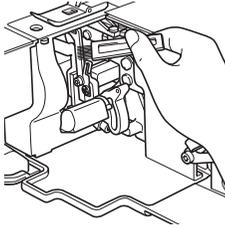
第7章 お手入れ

掃除

⚠注意

⚠ 掃除をするときは、事前にミシンの電源スイッチを切ってください。

ミシン使用後に、付属のミシンブラシを使ってほこりや糸くずなどを取り除きます。



仕様

ぬい速度	最速 1,000 針／分
ぬい目の幅	6 mm / 3 mm
送りピッチ	2 mm ~ 4 mm
押えが上がる高さ	5 mm ~ 6 mm
ミシン針	シュメツツ ユニバーサル 130/705 H 90/14
対応糸数とミシン針数	1 本針 2 本糸 / 2 本針 3 本糸 / 2 本針 4 本糸 / 3 本針 4 本糸 / 3 本針 5 本糸
ぬい目	1 本針 2 本糸チェーンステッチ
	2 本針 3 本糸カバーステッチ (6 mm 幅)
	2 本針 3 本糸カバーステッチ (3 mm 幅)
	3 本針 4 本糸トリプルカバーステッチ (6 mm 幅)
	2 本針 4 本糸両面カバーステッチ (6 mm 幅)
	2 本針 4 本糸両面カバーステッチ (3 mm 幅)
	3 本針 5 本糸両面トリプルカバーステッチ (6 mm 幅)
製品質量	7.6 kg
ミシン寸法	幅 396 mm × 奥行 297 mm × 高さ 358 mm
電源	AC100V 50/60Hz
定格電圧 / 消費電力	AC100V 61W
ライト	白色発光ダイオード

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (マシン 119 番)」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのマシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室 (マシン 119 番)」にご相談ください。

■ お客様相談室 (マシン 119 番)

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室 (マシン 119 番)」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市長瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室 (マシン 119 番) Tel: 050-3786-1134
050 (ゼロ ゴーゼロ) で始まる電話番号です。
Fax: 052-824-3031

受付時間: 月曜日～金曜日 9:00 ~17:30

休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室 (マシン 119 番) は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
- マシン背面の定格ハリマーク (銀色シール) の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室 (マシン 119 番)」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。

<http://www.brother.co.jp/>

ブラザーソリューションセンターでは、製品に関するサポート情報を掲載しております。

<http://support.brother.co.jp/>